

研究開発に取組み続け、溶接棒製造装置の世界トップ企業に 福知山重工業株式会社

今回は、溶接棒製造装置、FCW(フラックスコアードワイヤ)製造装置が好調で、業績を順調に伸ばしている福知山重工業株式会社 代表取締役社長 吉田勝太郎 氏にお話を伺いました。

溶接棒(手棒) 製造装置を開発

溶接棒は、大別しますと手棒とワイヤ式のソリッドワイヤ、フラックスコアードワイヤ(以下「FCW」といいます。)の3種類があります。

手棒は、金属の棒の表面にフラックス(融剤)をコーティングしたものです。棒の長さが短いので自動化が困難で、また、つかんでいる部分が5cmくらい残り、ロスがでます。そこで、自動化が可能で、かつロスを少なくするため、ワイヤ式が開発されました。

ソリッドワイヤは線材そのものが成分を調質した金属でできているものです。FCWは、パイプ状のワイヤの内部にフラックス等を充填したものです。

当社は、昭和40年に溶接棒(手棒)製造装置を開発した後、約10年間は手棒の需要が拡大し、溶接棒(手棒)製造装置の設計・製造が当社の主力製品となりました。日本国内だけでなく、韓国、台湾、タイを始めほとんどの東南アジアの国々、米国、スウェーデン等海外にも輸出しました。しかし、昭和48年の石油危機を契機とした世界的な造船不況から、次第に手棒の需要が減り、製造装置の売上也減っていきました。



代表取締役社長 吉田 勝太郎 氏

リスクの高い仕事の中で技術の勉強

このことは、何年も前から予測できたことですので、自動車ガラス関連設備や無人搬送車などの設計・製造を受注して売上を何とか確保しました。

以降、各種産業用自動化及び省力化機器の設計・製造を手掛け、数年前までは溶接棒製造装置が売上に占める割合は25%程度になりました。

当社が手掛ける産業用機械は一品ものが多く、継続性がありません。経験のある仕事はリスクが小さく、経験のない仕事はリスクが高いといえます。しかし、当社の基本的なスタンスは、勉強する意味で後者を選びます。我々中小企業が技術で生きていくためには、仕事の中で勉強をしているといかないといけないのです。その仕事で損しても、何か残れば良いと考えています。

FCW 製造装置を開発・製造

そのうち、コストダウンや省力化のため、溶接棒が手棒からロスが少なく自動化がし易いワイヤ式に変化してきました。

当社は、ソリッドワイヤかFCWのどちらの製造装置の開発を行うかの選択に迫られました。ソリッドワイヤでは、フラックス等が混入された金属が製鉄所でつくられ、それを伸線する装置しか当社では担当できません。FCWであれば、フラックス等を金属で包み込むという比較的複雑な加工をする装置を担当する事ができます。そこで、当社はノウハウが必要なFCW製造装置を選択しました。

FCW製造装置は、5年ほど前から売上が伸びてきました。コストダウン

や省力化、いろんなスタイルの溶接姿勢に対応できるFCWの需要拡大に加え、造船市況の好転により、FCW製造装置の売上が一気に増えてきています。現在では、当社の売上の70~80%を占めています。

FCW 製造装置の世界トップメーカーに

当社のFCW製造装置のシェアは恐らく国内100%であり、世界でもNo.1だと思います。手棒製造装置も同様です。当社は、昭和40年からの長い歴史の中で、溶接棒製造世界各国のNo.1、No.2の企業と取引を続けており、常に新しいニーズをつかみ、製品の改良に反映しています。同じ製品は二度と作りません。毎回改良を加えています。常に顧客に満足していただける溶接棒製造装置を完璧に生産できるのは当社だけです。

当社は納入後5年でも10年でも当社に責任のあるクレームに対しては無償で修理しています。口コミで良い評判が立つには、顧客が十分に満足し、常にうまく動いていないといけません。

FCW製造装置では、特許を取得していません。当社は、常にニーズを把握し、改良を加えているので、技術について他社の追随を許しません。コピーされてもすぐに性能に差が出てきます。

1度ならず2度までもコピーをした会社がアジアにありましたが、現在ではもうコピーをされません。後日、その企業の会長と話す機会がありましたが、「機械をコピーしても進歩がない。常に最新鋭の機械を入れないと競争に勝てない。」ということでした。その企業からは、昨年10ラインの受注があり、来年も8ライン受注しております。



新工場

今後の展開

しかし、溶接棒製造装置もいつまで好調が続くかわかりません。先を見据えて、太陽電池用シリコン単結晶引上装置の設計・製造を開始し、今年度、当社の敷地内に同装置専用の新工場を建設しました。既に一定量の受注を確保しています。タイヤ成型機や大型パネル用ガラス研磨装置の設計・製造にも取り組んでいます。今後も、溶接棒製造装置を核としながら様々な産業用機械に取り組んでいきます。

DATA

福知山重工業株式会社
代表取締役社長 吉田 勝太郎 氏

所在地 〒620-0881 福知山市字堀1965番地ノ2
創業 明治22年
資本金 19,200千円
従業員 30名
事業内容 溶接棒製造装置、各種産業用機械設計・製造
TEL 0773-22-2111
FAX 0773-22-5141
URL <http://www2.nkansai.ne.jp/com/fhi/>